

2024 年 4 月 28 日

今月のゲストは、ケニア出身のピーターさんと奥様の紀子さんでした。

スーダンでの紛争で傷ついた方や、病院が機能していないため治療を受けられない方への治療を、ケニアで看護師として対応されていた紀子さんと、そこへ患者さんを運ぶ飛行機のパイロットをされていたピーターさんは、同じところに寝泊まりをしていたので知り合ったそうです。その後、ケニアと日本をお互い行き来し、15 年前にピーターさんが日本へ行く決意をし、現在に至ります。

ピーターさんが日本に来て驚いたことは「英語が通じないこと」と、「魚料理が多いこと」！英語表記がまだ少なかった 15 年前は紀子さんからもらったメモなどをもとに電車に乗ったり、とにかく大変だったとか。現在は英語表記も増え、スマホで翻訳もできるので簡単ですとおっしゃっていました。

家庭内での問題は、「あいづち」。紀子さんが話している時、ピーターさんがあいづちをしないので紀子さんが怒ってしまうとか。これはコミュニケーションをどうとるかが文化によって違うということ。「文化が違うから仕方ないと思うけど、聞いてるって確認もします笑」と紀子さんがおっしゃっていて、こういったことが「違いを受け入れ、理解し、折り合いをつける」ということなのかなと思いました。

最後にピーターさんからメッセージをいただきました。

「私たちは、外国人と呼ばれますが、その前にみなさんと同じ「人」です。朝起きて、仕事をして、税金を払って、子どもを学校に送って、同じ生活をしています。だから、怖がらないで声をかけてください。私たちはそれが嬉しいです。

そして世界は大きい。日本は世界の中の一つの小さい国です。みなさんが世界に出たらみなさんは「外国人」です。でも、ケニアでは外国人という言葉はありません。外から来た人はみんなビジターです。ビジターはいつでも welcome。日本もそうだと思います」

紀子さんからは

「みなさん、ぜひ外国に行ってみるといいと思います。そこで住んでいる人を見て、こうやって生活しているんだとわかると、日本に住む外国の方も理解することができます。私もケニアでピーターさんが家族とどう過ごしているかを目の当たりにして、彼が理解できるようになったし、お互いを尊重できるようになったと思います」

と、素敵なメッセージをいただきました。

相手の立場に立つ、理解する、尊重する、大切な言葉だと思います。

素敵なお二人ともっとお話しして、たくさん教えていただきたいと名残惜しい気持ちを持ちつつ、終了となりました。

TABUWATA が大切にしていることは、決して間違っていないと後押ししていただいたなと感じ、また TABUWATA がやるべきこともたくさんあるなと決意を新たにしました！

これからも応援お願いいたします！











2 件以上

インサイトと広告を見る

投稿を宣伝

すべてのリアクション:

5 你好 花嫁 (ニーハオ はなよめ)、他 4 人